

スクールインターンシップで学び成長したこと

法学部政治学科 3年次生

私は、7月末から11月末まで16回にわたり、京都府立鴨沂高等学校にてスクールインターンシップの活動を行いました。この体験記では、その16回の活動内容、応募理由、またこの活動を通して学んだことを述べたいと思います。

まず活動内容は、授業見学を主に行いました。私は、高校の地理歴史科と公民科の両方の免許を取得したいと思っていたので、日本史、世界史、公共、政治経済、倫理等たくさんの授業を見学しました。見学にあたっては、見学する週の前の週に、授業をされる先生のところに自ら見学の許可をもらいに行き、インターンシップ担当の先生に報告するという形で行いました。他にも、文化祭の運営、高校説明会の保護者対応、主権者教育のお手伝いなど様々な経験をさせていただきました。また鴨沂高校は多くの大学生を受け入れてくださるので、他の大学の方と教員採用試験への情報交換なども行うことができました。

次に応募理由は、実際の学校の雰囲気を知りたかったというのが大きな理由です。私は、高校生の時にコロナ禍の影響で思うような学生生活を行えなかった歯がゆい気持ちがありました。だから文化祭や体育祭がどのように行われるのか、コロナ禍を克服した学校は、コロナ禍を契機に新しく導入した一人一台端末をどのように利用しているのかについてとても興味がありました。そしてそれを学ぶことにより、実際に教師になった際に活かされるような経験になればと思い応募しました。

さてこの活動を通して学んだことは、2つあります。

第一に、生徒が主体となる学びのための発問の仕方です。政治経済の先生の発問ポイントは、イエスかノーで答える発問であること。なぜそちらなのかを考えること。そしてそれをペアで必ず話し合いをすることです。一見ふつうに思えるかもしれませんが、この先生はこの発問を授業で5回以上します。そのため授業が生徒主体そしてアクティブラーニングで進められます。それは一回ごとの授業の印象が強くなり理解がより深くなると考えます。

第二に、生徒が主体となる文化祭です。私は、文化祭準備期間を1年のクラスに入って見学しました。1年生は創作ダンスを行います。そのクラスではダンス経験者がおらず、苦戦していました。時には衝突もしました。しかし本番には、しっかりときめていて、生徒のみんながキラキラしていました。その後結果発表を迎え、そのクラスは3位以内に入ることができませんでしたが、「楽しかったからいい」という声をきき、これが文化祭のあるべき姿なのかと感動しました。これは生徒が主体となり、40人全員で一つのモノを創るという経験が、この言葉に繋がったのだと思います。これらの学びは、インターンシップをしなければ学ぶことができませんでした。この学びを通して、私は、勉強が得意な生徒も苦手な生徒も「学ぶことが楽しい」と思うような授業をする教師になりたかったと気

づきました。そしてその授業づくりを行うための方法をいくつか持つことができ、漠然としていた目指す教師像がはっきりとしてきました。

最後に、このインターンシップを通して先生方のお話を聞き、教師という仕事の難しい部分も知りました。しかし、どの先生も最後に「子どもの成長に関われる仕事を誇りに思う」と話されます。そのように先生が話す瞬間をこの4か月何度も目にし、心を打たれました。インターンシップの応募を考えている方は、ぜひ応募してください。講義室の中だけでは学べないことや素敵な出会いがたくさんあります。たしかに不安があると思います。しかし経験は自信に繋がります。その不安な気持ちを自信に変えて成長しようとする皆さんを応援しています。